



ちゅうおうまち 中央町

- 特産品 メロン、ミカン、肥後牛、栗、茶シイタケ
- 環境 南部は森林資源に恵まれた山岳丘陵、北部は盆地で水田と畑地。又、緑川に合流する釈迦院川と浜戸川が水田を潤している。
- 産業 第一次産業が中心。
- 観光 釈迦院御坂遊歩道の日本一の石段二保五橋、西山のつつし、製川水源、椿鐘乳洞など。

西田さんは中央町あか牛研究会会長です。「牛がかわいくてしかたなかです。この前早産した時は一晩中こたつで温めて育てたんですよ。最近畜産も厳しかけど、夢があるし、家内と一緒に仕事ができるから、楽しいですね。彼女は、私のよきパートナーです。子供たちも牛が好きで、将来は獣医になりたいって言っているんですよ。」

● 西田誠也さん 35才
玲子さん 34才



文政5年(1822)に完成した二保五橋のたもとでお会いした佐田さん。「欄干のへこみは、子供の時のまごとの跡です。雑草は石でつぶして遊びました。橋の架かる前は、この川は飛び石で渡りよかったです。」石橋に関する面白い話を次々と聞かせてくれました。

● 佐田薫さん 79才



中央中学で男子テニス部を教えている浜田さん。このテニス部のOBという浜田さんは、郡大会優勝の経験もあるとか。「中央中は、全校生徒200人中40人がテニス部。人気のあつてですよ。今年の目標は、郡の中体連で優勝して、県大会で活躍することですね。」

● 浜田憲治さん 21才



園道沿いで毎年花を育てている境さん。かきつばた、マ一ガレットが満開の中でお話しを伺いました。「道路のそばです。なかなかなか咲かなくて。毎日の手入れもたけど繁殖力のある花や、あまり手のかからない花を選ぶのも大変ですね。でもとにかく花が好きです。から、一年中いろんな花が咲くようにしています。」

● 境茂己さん 59才



大沢水老人会婦人部では、近所に住む99才の林さんのお話をしています。山本さんと梅田さんにお話を伺うと、「庭の草を刈ったり、食事を作ったり。ばあちゃんはアメリカにおったこともありますが、今でも朝食はコーヒーにパンを食べるとす。来年は100才で、国や県からもお祝いをしてもらえるんですよ。」

● 山本ツタエさん 73才
● 梅田末女さん 71才
● 林つまさん 99才



「毎日朝5時から空き缶拾って、もう十年になります。たばこをやめたら太りだしたけん、ちょっと散歩を始めたのが、だんだん範囲が広がってバイクじゃないと回りきれなくなっちゃった。(笑) 毎朝、80個ばかり拾うですよ。こがんでいくとはやっぱシャボ効環気の良か証換てしょうか。」

● 三浦保さん 65才



東田さん夫婦はメロン農家。今、100mのハウスが16本あります。昭和46年に始めたのですが中央では、一番早く組してですね。おいしいうちで土づくりですね。有機肥料ば使って、愛情込めて育てとりま



熊本県下あらゆる市町村でがんばっている人気者、元気者のみなさんにスポットをあて、紹介していくコーナーです。今回は日本一の石段で有名な中央町をウォッチングしてみました。

熊本県下あらゆる市町村でがんばっている人気者、元気者のみなさんにスポットをあて、紹介していくコーナーです。今回は日本一の石段で有名な中央町をウォッチングしてみました。



長男憲彦君(小三)と剣道の練習に励む本田さんは、病院の婦長さん。「昼は子供たちと一緒にいてやれないので、夜だけでも親子で同じことをしようと思ってきました。子供はテレビを見たいからと、はじめはいやがってたけど、今では喜んでやっているようです。」

● 本田紀子さん 36才



今回の取材のお世話役
中央町総務課長補佐
藤田立登さん
たつと

ウォッチング！元気凶鑑



20年にも家に居ると、朝からバタバタしてもいいから、やはり何か勉強したいなと思えますよ。

後藤縁さん
室長に意欲満々の抱負を聞かせて頂きました。何かをやってくれそうなの姿勢に、とても好感を持ちました。育児休業制度の普及促進も大切ですが、夜の就業をしなければならぬ時や出張の時に子供を預かる施設。そして自分の高揚に努める人々のために、女性人材バンクの方を先生にみたカ、ルチャーセンターなどを作るというのでは無いでしょうか。これから将来に向けて、ぜひ実現してほしい事だと思えます。



西本朱美さん
お会いするまでは堅いイメージを持っていましたが、村松さんは女らしい心遣いに溢れた方でした。県の活動が10年も前から始まっていたというお話の中に、婦人問題に対する真剣な意気込みが感じられました。しかし、女性が自分の考えを持つことだけが婦人問題解決の基本でしょうか。例えばもっと花や絵を飾って気楽に入れる県庁の雰囲気づくりなどもその仕事のひとつではないでしょうか。

「〇〇さんの奥さん」と呼ぶのは失礼なんです。相手を見てこそ自分も認められるんだから。〇〇さんと呼ぶようにしなければね。

県庁すっごい 阿蘇の煙が見える//かも 県庁展望室



県庁のエレベーターを上って12階、さらに階段を上った屋上階。東に阿蘇、西に市内が一望できます。ここは、こじんまりとした喫茶室になっており、200円のアイスクリームを食べながら見渡す風景は抜群です。

松坂明子さん
第一回目という事でとても緊張しました。想像していたバリバリのキャリアウーマンとは対照的な優しい感じの村松室長。優しい物腰の中にモシヤアプの準備その話し方にすっかり魅了されてしまいました。さすが初代室長、これを究極の働く婦人です。



「婦人対策室という名前が恥ずかしいですね。もっと親しみ易い名称はないのでしょうか。それと女性の事務服は、どうも……」

それゆけママさん探険隊



[第1回] 婦人対策室

ワイワイ言いながら付けた腕章を腕にイザ、婦人対策室へ！胸ドキドキの初体験三人組は、松坂さん、後藤さん、西本さんのママさん探険隊。元気でパワフルな三人組さすがに緊張気味。静まりかえった廊下を何故か？一列に並んで進むママさんたち。県民生活総室の扉を開けると、正面左側に今日のターゲットである村松室長の笑顔がありました。すっかり恐縮気味の三人。しかし話が進む中、室長の優しい思いやりが緊張もほぐれます。こうして和やかに進む探険も時が過ぎるにつれて迫熱。身ぶり手ぶりで話す情熱的な室長に、ママさんたちも押され気味のよう……。



なごやかに自己紹介

スイッチを切り換えるようにして、あまりいろいろな気にしないようにしています。女性的の方々には、自分の意志をしっかりと持って、いろいろな場面で知的関心を持ちながら、積極的にアタックしてもらいたいと思っています。

「男らしさ、女らしさ」は、とても大切だと思います。それは「男だから、女だから」という差別とは全然次元の違うものだと思うからです。

● 婦人対策室とは

今年、県庁2階の県民生活総室内に設置。1975年の国連婦人年でクローズ・アップされた婦人問題に、いち早く着手してきた熊本県。今後は、21世紀を支えるためにも、従来からの「男は、女は」というような観念を一掃して、男性・女性がそれぞれの能力を出し合い協力し合えるような熊本をつくるために積極的な取り組みを行います。

● ひと言

みなさん積極的にしっかりと考えた考えをお持ちの方々です。県庁探険隊には最適ですね。これからは活躍を楽しみにしています。(村松室長)

● 探険・終わって……

村松室長とすっかり意気投合したママさんたち。皆で記念写真におさまった後は、冗談も飛び交う明るいムード。総室内の男性がチラチラ遠慮がちな視線を向ける中、「時間があつたらまた遊びに来て下さいね」という室長の言葉にしっかりと頷く三人でした。



婦人対策室室長 村松 緑さん